

きんもくせい

病院だより

vol.128

令和6年

2月号



10周年、そして未来へ

シリーズ **がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で**③

肺がんを知る —肺がんの予防と治療—



▲ 気管支鏡検査を行う呼吸器内科医師

肺がんは、国内の部位別がん死亡数*1が最も多く、2020年には約7万6千人の方が亡くなっています。肺がんの原因は様々ですが、「喫煙」は最大の危険因子であり、禁煙することが肺がん予防の最善策だと言われています。また肺がんに限らず、定期的ながん検診や人間ドックによるがんの早期発見・早期治療が、とても重要です。

シリーズ「がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で」3回目の今号では、「肺がんを知る」と題し、当院の呼吸器内科医師が肺がんの予防や治療、患者さまやご家族へのサポートについて、詳しく解説します。

※1 国立がん研究センター がん情報サービス がん登録・統計 参照
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

・肺がんとはどんな病気？

肺がんとは、気管支や肺胞の正常な細胞がタバコや放射線などの影響でがん化したものです。がんは周りの組織を壊しながら増大し、血液やリンパの流れに乗って全身に転移していく特徴があります。肺がんの患者数は年々増加しており、1年間で約12万人が新たに診断され、7万人以上の肺がん患者さんが亡くなっています。

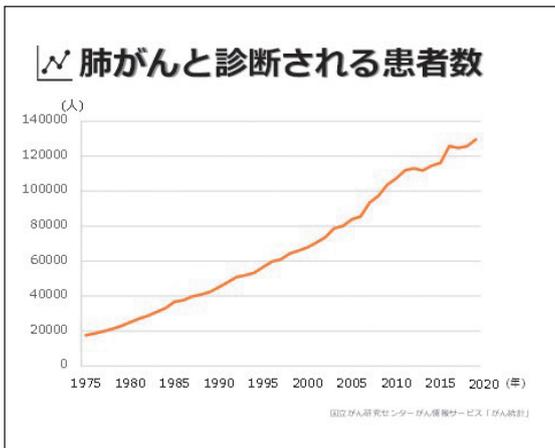
肺がんには様々な種類があり、組織型によって腺がん、扁平上皮がん、大細胞がん、小細胞がんなどに分けられます。

・予防について

がんの予防には、がんにかからないための1次予防と、がんを早期発見し、早期治療につなげるための2次予防があります。

肺がんの1次予防は、ずばり「禁煙」です。タバコには多くの発がん物質が含まれており、気管支や肺の細胞が発がん物質に繰り返しさらされることにより遺伝子に傷がつき、がん化していきます。タバコを吸う人では、吸わない人と比べて肺がんにかかるリスクが4.5倍も高く、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙本数が多いほどリスクは高くなります。しかし、この数字は禁煙することで年々下げることができ、20年以上禁煙すると肺がんにかかるリスクは、吸わない人とほぼ同じ程度まで下がるとも報告されています。また、たばこは肺がんに限らず全身のがんや脳卒中、心筋梗塞など万病の元です。タバコを吸っている方は、元気に長生きするために1日も早く禁煙に取り組みましょう。

早期発見・早期治療のための2次予防は、「検診」です。40歳以上の方は年に1回、肺がん検診として胸部レントゲン検査を受けることが勧め



られています。さらに50歳以上でヘビースモーカー（1日のたばこの本数と喫煙年数をかけた数字が600以上）の人は、レントゲン検査に加えて喀痰検査が推奨されています。対象の方は忘れずに検診を受けるようにしましょう。

肺がん検診

対象	40歳以上
受診間隔	年に1回

50歳以上のヘビースモーカー*

胸部レントゲン写真
喀痰検査

ハイリスクでない人

胸部レントゲン写真

*1日の喫煙本数×年数が600以上 (例：1日20本×30年=600)

・治療について

精密検査により肺がんが診断されると、がんの進行度（ステージ）によって治療方針が決まります。発見が早期の場合、手術や放射線治療が選択され、進行度が進むにつれて抗がん剤治療（化学療法）を中心とし

た治療法となります。近年、肺がんの治療、特に抗がん剤治療は目覚ましく進歩しており、従来の薬剤に加え、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、さまざまな種類の薬剤が利用可能となりました。分子標的薬は、がんの発生や進行に直接的な役割を果たすドライバー遺伝子（EGFR、ALK、ROS1など）を標的とした薬で、高い効果が期待できます。また、免疫チェックポイント阻害薬は、これまでの抗がん剤とは大きく異なり、免疫細胞を介してがん細胞を攻撃する薬剤です。が

肺がんの治療

I期

II期

III期

IV期

● 原発巣 ● リンパ節転移 ● 遠隔転移

手術（放射線治療）

抗がん剤治療（化学療法）

化学放射線療法 (抗がん剤+放射線)

※ 肺小細胞肺癌の場合

んの種類や患者さんの状態によって、これらの薬剤を使い分け、場合によっては併用することもあります。当院では、最新のエビデンス（科学的根拠）に基づいて、患者さん一人ひとりに合った最適な治療法を提供できるように努めています。

・当院で行う緩和ケアやサポートについて

がん治療の中で重要な要素として、「緩和ケア」があります。「緩和ケア」と聞くと、何も治療法がなくなつた時に最後に受けるものと思われれることがありますが、これは大きな間違いです。がんに伴うつらさには、体がだるい、痛いといった身体的苦痛から、不安で眠れない、やる気がないといった精神的問題、思うように働けないといった社会的問題など多岐にわたります。緩和ケアは、これらのがんに伴う心と体のつらさを和らげることを目的としており、がんと診断されたその時から始まります。当院では医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士などからなる緩和ケアチームがあり、患者さまやご家族が自分らしく過ごせるようにサポートしていきます。



毎年多くの方が肺がんと診断されており、肺がんは決して自分には関係ない病気ではありません。タバコを吸っている方は、今日から禁煙を始めましょう。また、40歳以上の方は毎年の検診を忘れずに受けましょう。心配なことがあれば、何でも私たちに相談してください。



看護部通信

「あなたらしく生きる」を支えています
緩和ケア病床のご紹介

当院は、令和5年4月1日に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。そこで、更なるがん医療の充実と緩和ケアの向上を目指して昨年10月5日から、8階東病棟で緩和ケア病床の運営をスタートしました。

緩和ケア病床の運営目的は、「症状緩和とQOL^{*1}の維持・向上に努め、退院を視野に入れ安心して生活するための支援」です。当院の緩和ケア病床では、主治医・麻酔科医・認定看護師・病棟看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・栄養士・MSW（社会福祉士）が協働し、症状緩和に努め、意思決定支援や意向に合わせた支援・調整をし、その人らしく生きることを支えています。

当院の緩和ケア病床で行う疼痛緩和のひとつとして神経ブロック注射があります。神経ブロック注射を行うことで痛みが緩和され、鎮痛薬を減らすことが可能になります。また痛みが和らぐことで、ご自身がやりたいことに関心が高まった方もいらっしゃいます。

緩和ケア病床では、患者さまの状態や希望に合わせて1日の過ごし方が決まります。「午後からの孫の面会に備えて午前中は休息の時間にしたい」「温めると痛みが楽になるのでゆっくりお風呂に浸かりたい」など。私たちは、患者さま・ご家族さまに寄り添いながら、丁寧にケアさせていただくことを大切にしています。



今日のお風呂は「別府の湯」です
(写真はご本人・ご家族の許可を得て撮影しております)

*1 QOL (Quality of Life) の略 生活の質

掛川市・袋井市3病院
開院10周年合同企画 「脳卒中市民講座」を開催

参加費
無料
どなたでも

開院10周年を迎えた、袋井市立聖隷袋井市民病院、掛川東病院、中東遠総合医療センターの3病院に在籍する医師らが、脳卒中について市民の皆さまにわかりやすく講演します。

テーマ：『ワンチームで取り組む脳卒中 急性期～回復期～在宅まで』

日時 令和6年3月16日(土) 午後2時～午後4時
場所 中東遠総合医療センター3階大会議室
定員 130名(先着順)
※定員に達した時点で申込みを締め切ります。

申込み 2月14日(水)～3月15日(金)
電話、FAX、または病院ホームページの専用フォームから

申込み・問合せ

中東遠総合医療センター 経営戦略室
TEL：0537-21-5555(代表) FAX：0537-28-8971



- 講演① 「脳卒中の急性期医療」**
講師：中東遠総合医療センター脳神経外科
脳神経外科 診療部長 鳥飼 武司 医師
- 講演② 「脳卒中—リハビリテーション— 歩ける？ 運転は？ むせる？」**
講師：袋井市立聖隷袋井市民病院
脳神経外科 部長 竹原 誠也 医師
- 講演③ 「回復期から在宅における脳卒中当事者サポート」**
講師：掛川東病院 院長 宮地 紘樹 医師

RECRUIT

当院では職員を募集しています



**会計年度任用職員
(非常勤職員)**

医師事務作業補助者、
メディカルエイド、
事務職員

【医師事務作業補助者(MS)とは?】
医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。医師の指示のもと、診察や検査オーダー入力補助、診断書や証明書といった文書の作成などを行っています。



▲医師事務作業補助者

【メディカルエイド(MA)とは?】
シーツ交換や、食事の配下膳など患者さまの日常生活の支援や、外来や検査室等への移送、病棟の物品管理など、診療の環境を整える仕事を行っています。

4月・5月・6月は強化月間

年度初めに人間ドックや
健診を受けましょう!

4月～6月の期間限定で、人間ドック・協会けんぽ生活習慣病予防健診のオプション検査を特別料金にて受診いただけます。詳細は当院ホームページでご確認ください。



問い合わせ

人間ドック・健診センター
☎0537-28-8028
受付時間：9:00～16:00(土日祝日除く)



人事のお知らせ

このたび以下のとおり人事異動を行いましたのでお知らせいたします。

1月1日付 中東遠総合医療センター

<副院長職>

腎臓内科 **赤堀 利行**
整形外科 **浦崎 哲哉**
外科 **京兼 隆典**
麻酔科 **内山 智浩**

<院長補佐職>

循環器内科 **森川 修司**

1月1日付 医務局

<副医務局長職>

脳神経外科 **鳥飼 武司**

12月の
診療実績

1日あたりの患者数		
入院	404人	
外来	1,178人	
紹介率	88.6%	
逆紹介率	112.3%	
病床利用率	81%	
平均在院日数	9.1日	
手術件数	551件	
救命救急センター受診者数	1,417人	
救急搬送件数	633件	

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。 **中東遠** **検索**

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1
TEL 0537-21-5555

